020　古事記　　040322
三浦佑之著＜古事記講義＞
◎著者の先生はオレと同じ年のようだ。本を パラパラめくって興味のある部分をちょっと紹介します、とはいえ内容はきわめて難解なもので、うまく言い表せるやも・・です。

◎天（あめ）と地（つち）が姿を見せた。　その時、高天原に成り出た神の名は、「アメノミナカヌシ」だ。次に「タカミムスヒ」次に「カムムスヒ」が成り出た。

◎先生：まず天と地が姿を現したと語る。どのようにして姿を見せたのかは語られません。旧約聖書では創造神が神を造ったと語られる。古事記では何もないところに、ふと姿を見せる、というイメージでしょうか。
◎古事記では「成る」「成り出た神」となっている。世界の創成神話を見ると、「つくる」「うむ」「なる」三つの語りがある。丸山真男：「永遠普遍なるものが在る世界でなければ、無への運命づけられた世界でもなく、まさに不断になりゆく世界に他ならない」

◎先生：丸山は恰好いいこと言いますね、これは、「柿がなる」とおなじ、「なる」です。造ったものは潰れるけれど、成るものは次々、「なる」のだ、「不断になりゆく世界」なのだ。

◎オレ：天と地は在った。そこに果物の実がなるように、最初の神がなった。ほほお・・そこまで皆さん見ておられたのか・・。何年か前から、宇宙の誕生は何年前ということが、わかり始めているという。「ならば　宇宙のなかった時には　ここはどこで　なんだったのだ」なんていうと、難しい数式がずらりと並べられ、「こうだわからんか　わからんだろう」と諭されそうなのでだまっておく。

◎次　国稚如浮脂面	次に　国わかく浮けるあぶらの如くして
久羅下郡州多駝用幣流之時	クラゲナスタダヨヘル時
如葦牙因萌騰之物面	あしかびの如くもえあがる物によりて
成神名　宇摩志阿斯訶備比古遅神	成りませる神の名は　ウマシアシカビヒコヂの神

◎この四行の文章は、漢文と音仮名部分とが交互にある。＜国は大地＞。＜稚は未熟＞。ウマシアシカビヒコヂの＜ウマシは立派な＞。＜アシカビは葦やらカビが萌えあがる＞＜ヒコは男＞。＜ヂは神格＞。
◎古事記の原文が、こういう形式では書かれていない、ここは、二重の書き方になっている。

◎黄泉の国の神話でイザナキが約束を破って覗き見たイザナミの姿は・・。
◎一つ火に浮かび上がったイザナミの身体には、ウジ虫が数えきれないぐらい這いまわり、ゴロゴロ音が聞こえるほどだった。
◎腐乱死体そのものです。死者を安置して招魂や鎮魂の儀礼をおこなうための建物：喪屋とか殯宮（ひんきゅう）とか言いますが、そこに安置された死体の姿、古墳の玄室に置かれた死体の姿だと説明されている。古代の人々にはごく自然な風景の中に溶け込んでいたのでは・・。

◎腐乱死体ゴロゴロの話でひとくさり：いくつか年上の絵かきが、腐乱死体の絵を満艦飾（軍艦が万国旗やらで飾り立てることから転じて、洗濯物をいっぱい干すこと、転じて飾り立てること）の色を使って、おおいにデフォルメした画面の絵を描いていた。「僕は子ども時代、街に転がった死体をいくつも見てきた」と言っていた。5 歳 10 歳上の彼はアメリカ軍飛行機の爆弾や機関銃の犠牲者を見てきたのだろう。今もアフリカや中東では、普通にみられる風景かもしれない。

◎腐乱死体を見て逃げるイザナキ。これを見られたイザナミは、「よくも恥をかかせた・・」と追っ手を使わせる。追うイザナミと逃げ切ったイザナキが、最後の宣言。
◎「愛しい私のあなたよ　これほどひどい仕打ちをなさるなら　あなたの国の人草を　ひと日に千頭くびり殺しますよ」
「愛しいわが妹ごよ　お前がそうするというなら　我は　ひと日に　千五百の産屋を建てようぞ」
◎それゆえに、葦原の中つ国では、ひと日に必ず千人の人が死に、ひと日に必ず千五百の人が生まれることになったのだ。
◎「あなたの国の人草」地上世界である芦原の中つ国に住む人は、「うつしき青人草」と呼ばれている。人である草であって、草のような人ではない。人はまさに草、どろどろの地上に成り出た神の姿と人の表現が重なる。春になって泥の中から芽吹いてくるアシカビによってイメージされるのは、「うつしき青人草」そのものだ。

021　古事記　　060322
三浦佑之著＜古事記講義＞
◎死の話。人が死ぬ、死ぬのが当然とわかっていても、神話の中で、「人は死ぬ　ひとはなぜ死ぬようになったのか・・」というようなことが語られている、そんなことを紹介。

◎福岡伸一博士：「すべての秩序あるものは、崩壊する方向にしか動かない」“エントロピー増大の法則”この話をきき、「おお　オレはよく言う言葉」「形あるものは　潰れる」「なにい　こらあ～　壊してしまった　ま仕方がないね　形あるものは　壊れるもんね」これだねと思いながらも、生物の、生命の話と、何か大事にしているお宝を自分なり他人成りが壊してしまったこととは、筋違いの話かな・・。

◎生物は自然崩壊を先回りして、自らを壊し、環境から取り込んだ分子を使って自分を作り直すことによって、自然崩壊を先延ばしにしている。もちろんこれは先延ばしをしているだけで、そのうち壊れる。
◎生物は、壊しながらつくり続ける。「先日約束したのは　今のオレじゃない　先日約束したオレは　もう　排泄してしまっている・・」という面白い話を聞いた。

◎コノハナノサクヤヒメ（木の花が咲く）：高天原から地上に降りたニニギはコノハナノサクヤヒメに求婚します。姫の父は喜び、姉のイハナガヒメ（岩長：岩石のように永遠の女）を副えて嫁がせます。ニニギはイハナガヒメを醜い姿の故に、親元に送り返します。木の花のように美しい女は、移ろいゆく時間を象徴するのに反し、岩石のように醜い女は、永遠性を象徴する。

◎姉妹の父：オホヤマツミは、姉を送り返されたことにひどく恥じ呪詛します。
◎私が娘二人を並べて送ったわけは、イハナガヒメをお使いになれば、天つ神の御子の命は、たとえ雪降り、風吹くとも、いつまでも岩の如く、常永久に、変わりなくいますはず、また、コノハナノサクヤヒメをお使いになれば、木の花の咲き栄えるがごとく栄えいますはずと、祈りを込めて娘たちお差し上げました。それをかくのごとく、イハナガヒメを送り返して、ひとりコノハナノサクヤヒメだけをお留めなされたからには、天つ神の御子の命は、山に咲く木の花のままに散り落ちましょうぞ。

◎木の花は、どうしても桜でなくてはならない。さくらこそが繁栄と有限のふたつを象徴する唯一の木の花として存在するからです。
◎桜の木、桜の花、たかが桜の花とは言え今も昔のにぎにぎしく語られる。40、50歳代には桜が咲いたと言えば酒と食いものをもって“花見”の席に駆け付けた。当時はよく飲んだ、いくらでも、何時間でも、「旨いうまい」と杯を重ね箸を重ねていた。あきれるほどに飲んだねえ。

◎インドネシア・ニューギニアあたりで広く伝承される神話に“バナナタイプ”と呼ばれるものがあります。バナナタイプと呼ばれる人間に寿命の起源を語る神話は、環太平洋の各地に広く伝播していた。

◎スマトラ：大地が創造された時、神によって、創造事業の仕上げをするために、ある存在が天から下された。彼は一か月断食をしなければならなかったが、空腹に堪えかね、いくらかバナナを食べた。しかしこの食物の選択がもっとも不幸であった。なぜなら、バナナの代わりに河蟹だけを食べたなら、人々は蟹のように皮を脱ぎ捨て、死ななかったであろう。

◎中央セレベス：初め天と地の間は近く、人間は、創造神が縄に結んで天空から垂らし下してくれる贈り物によって命をつないでいた。ある日、創造神が石を下した。我々の最初の父母は、「この石をどうしたらよいのか？何か他の物をください」と神に叫んだ。神は石を引き上げて代わりにバナナを下ろしてきた。我々の最初の父母は走り寄ってバナナを食べた。すると天から声があって、「前たちはバナナを選んだから　お前たちの生命はバナナの生命のようになるだろう　バナナの木が子供を持つときは　親の木は死んでしまう　そのようにお前たちは死に、お前たちの子どもたちがその地位を占めるだろう　もしお前たちが石を選んだならば　お前たちの生命は　石の生命のように不変不死であったろうに」

022　古事記　　090322
三浦佑之著＜古事記講義＞
◎ウケヒ：以前にこの話は当ブログで書いたことがある、「占い？　勝負？　どこが勝ち負け？」わからないままに、キツネにつままれたように読み終わった。
◎先生：ウケヒというのは、神に神意をうかがう行為です。まず、ＡとＢのふたつの前提条件を明らかにします。例えば、コインを投げて表が出たら私があなたにお昼をごちそうする。裏がでたらあなたが私にお昼をごちそうする、というふうに条件を決めます。賭けや賭博のようですが、古代的に、コインの表がでるか裏がでるかは神の意志なのです、神意です。

◎イザナギが黄泉の国から戻って禊をしたのちにアマテラス・ツクヨミ・スサノオの三貴子を産んだ。イザナギは、アマテラスには高天が原を治めよ、ツクヨミには夜が支配する国を治めよ、スサノオには海原を治めるように命じます。スサノオは父の言葉に従わないので、追放されます。スサノウはアマテラスに挨拶に行くと言って高天原に昇っていくのですが、アマテラスは、自分の国を奪おうとして昇ってくるに違いないと思って、武装してスサノオを待ち受けます。スサノオはそのような汚い心は持っていないというが、アマテラスは信じてくれず、かえって、その心をどのようにして示すのかと問い詰めます。スサノオは、それならばウケヒによって子を産んで、心の清明さを示しましょうと答える。

◎しかして、天照大御神、詔（の）らさく、「然あらば　汝が心の清く明（あか）きはなにを持ちて知らむ」と、ここに、鮠速須佐之男の命、答へて白（まお）さく、「各（おのおの）　ウケヒて子生まむ」と。
アマテラス、まづスサノオの命の佩（は）かせる十拳（とつか）剣を乞い取りて、三段（みきだ）にうち折りて、ヌナトモモユラニ、天の真名井（まない）に振り滌（すす）きて、サガミニカミテ、吹き棄（う）つる伊吹の狭霧（さぎり）に成りませる神の御名（みな）は、タキリビノミコト。またの御名は、オキツシマヒメと謂ふ。
次に、イチキシマヒメノミコト。またの御名はサヨリヒメノミコトと謂う。
次に、タキツヒメノミコト。

◎スサノオ、アマテラスの左の御（み）ミヅラに纏（ま）かせる八尺（やさか）の勾玉の五百津（いほつ）のミスマルの珠（たま）を乞い取りて、ヌナトモモユラニ、天の真名井（まない）に振り滌（すす）きて、サガミニカミテ、吹き棄（う）つる伊吹の狭霧（さぎり）に成りませる神の御名（みな）は、正勝阿勝々速日天之忍穂耳の命（マサカツカツカチハヤヒアメノオシホノミコト）。また御ミヅラに纏かせる珠を乞ひ取りて、サガミニカミテ、吹き棄つる気吹の狭霧に成りませるかみの御名はアマノホイノミコト。
また、御纏（みかづら）に纏（ま）かせる珠を乞い取りて、サガミニカミテ、吹き棄（う）つる伊吹の狭霧（さぎり）に成りませる神の御名（みな）は、イツヒコネノミコト。
また、・・・イクツヒコネノミコト。
また、・・・クマノスクビノミコト、合わせて五柱。

◎ここに、アマテラス、スサノオに告（の）らさく、「この　後に生（な）りましし五柱の男子（おのこご）は、物実（ものざね）我が物によりて成りませるなり。故、すなはち汝が子なり」かく、詔（の）り別（わ）きましき。

◎我が心清く明（あか）し。故、我が生める子は手弱女（たわやめ）を得つ。これによりて言（まを）さば、自ずから我勝ちぬ。

◎スサノオがアマテラスの身に着けている珠を乞い取って、口に入れてかみ砕き唾といっしょに吹き出すと、その霧吹きから神が成り出た。

◎口に入れかみ砕き吹き出して子を産む、これは性的なイメージがあるのでは。「兄妹婚」「巫女犯し」という禁忌性を「深く潜在させている」と見るべきだと思う。

◎何度も同じ表現を繰り返すことによって音声のリズムをつくってゆく、聞いていて、心地よい感じがする。

◎このウケヒ、「〇〇なら　こちらが勝ち」という前提条件なしに進んでいる。日本書記では、「男が生まれたほうが勝ち」という条件が決められ、スサノオが負けている。古事記にはこの最初の前提条件が無い、なぜ無いのかわからない。これが無かったのでオレは、「なにがなにやら・・」と思っていた。

023　安威川　　100322

◎安威川の河原、風は冷たいけれど真冬は終わったかな。手袋も、ネックウオーマーもポケットに入れ走っている。この何日か本格的な雨が降っていない、土が乾いているところはホコリがたつ、濡れた土の上を走った自転車のタイヤ跡が今は凸凹、つまづかないように・・。「ここんところ　なんだかバタバタ」「そうだ　あれとあれが入ってきた・・」なんて思い出しながらの河原にいます。「2 月ぐらいから　なんじゃかじゃ　忙しい」「なにが忙しい　なにがある・・」「なにだ・・」

◎市の教室：コロナめの話、去年の暮れには波が収まって、感染者の数字がびっくりするぐらい少なくなってきていた。「これで収束するのかな　これならオレの展覧会もできるかな・・」と思っていたが、“オミクロン”という名の変異株が出て、外国で騒いでいるというニュースが踊り始めた。これは外国だけの話では終わらないのではと危惧していたが、案の定、日本でも急速に感染者数が増えだした。オミクロンは、「感染力が強いが重症化はしない」と言われていたが、あれよあれよと数が増え、過去最大の数字なんて騒がれだした。
ところが、市の行事はストップしない、以前のように何もかもが中止になって、「家に籠って　じっとして　他府県に出てはいけない・・」とは言わなくなった。そんなわけで、公民館関係の教室が始まった。全員マスク装着、窓を開け風を通す、無駄話はしない‥とはいえ、オレの教室、ま冬の今なので窓を閉め暖房をつけている。皆さんおしゃべりも盛んだ。この 2 年、教室開催の回数がほとんどなかったが、今年に入って、以前に戻ったようで、月に何度か、せっせと通っている。

◎まるも食堂：2 月の初めころに、山から帰ると友人のまるも君から電話があったという。翌日電話をすると、「今　工場の食堂改装工事が始まって　壁と床の色　考えてくれ」という依頼だった。一年前にも彼から電話で、「社長室改装・・」という依頼を受け、2.3 度出向いてやっつけた。今度も気軽に行ってみると、25 メータプールの縦半分ぐらいの面積の大部屋を工事中だった。図面と材料カタログをもらい簡単なスケッチを描き、施工会社の方と打ち合わせ、あれやこれやで何度か出向いている。
場所は淀川の仁和寺大橋を渡ったところ、「自転車ですぐだ・・」「あかん　車で来い　そやないと　オレが行く」「そんじゃ車で・・」彼の会社はトラックの整備が主で、いつも大型トラックが所狭しと並んでいる。
壁は壁紙施工だが、「壁紙は　縦の線ぐらいにして欲しい、予算の関係で・・」ということで、白い天井と同様の白色に、5.6 本の黒い筋を入れるデザイン。
床は 50 センチ角のビニールタイル貼り、「予算の関係で　複雑な線や曲線は　勘弁して・・」ということで、ヨーロッパの寺院床の雰囲気的なものをデザインした。
「オレ　壁に　20 センチ角の絵　20.30 枚　寄付する」壁にタイルのような形態の絵を貼り付けることをイメージしてデザインした。
ベニヤ板、ボンドなどを買い、板は 20 センチ角にノコギリを入れた。「もういらない　直しようがない・・」という絵を探し出し、ベニヤ板に貼り付けその上から絵の具、これで味が出る。直接壁に貼り付けるので、絵の小口が見えないようにキャンバスは板に巻き込んで糊付けした。数えると 37 枚の絵ができあがった。37 枚は、壁と床ができあがった現場に持って行き、場所、高さ等、3/14 に、現場で決めるつもり。

◎歯医者：50 歳代の頃、八尾の回転寿司やで貝かタコか、堅いものを噛み、「いてて」奥歯に痛みが走った。その 10 年ぐらい前にも、「いてて」があった、友人の三木さんが、「簡単な虫歯　セメントでふたをしておく」で終わった。寿司の時は、「あああ　歯周病が来てる　もっと　はよ　こんか　いくつか　すぐに抜けるぞ・・」と脅かされ、ガリガリやられた。「歯周病は　治らない　治療できない　どうしようもない・・」ということで、「いてて」がきたらあわてて M さんの所に駆け付けていた。
5 年ほどして、自分でコントロールができるようになった。まずは酒が悪い、酒を飲む時にはずっと旨いものを噛んでいる、そのまま寝てしまう、翌朝には歯が何だか痛い。普段、マウスピースを噛んで寝ると爽やかに起きられる。歯間ブラシでよくこする、「少し痛いな」という時はきつくごしごしこする、すると痛みが引いていく。そんなこんなで、歯医者にもいかず過ごしてきた。それ以来 20 年、「ぼちぼち　コロナが終わったら　歯を　入れてもらおう」と思っていた矢先、「あれれ　M さん　歯医者の看板　おろしたじゃないの・・」と困っていた。
山仲間先生が飲み屋でオレの歯を見て、「ウっとこにおいで　悪い所を治して　5 本　入れ歯　10 回ぐらい通って・・」と話がついたが、その方も都合が悪くなった。
近所で歯科医院を開業しますと看板が出ていた。娘が、「なんでもいいから　あそこに行ったら・・」背中を押され、内覧会の時に予約に行った。「あなたの歯は　おおよそは　うまくいっています　悪くなってない　入歯　あっても　無くても　いいのでは」「ま　作りましょうか」4 回目には入歯ができてきた。朝飯のときに使っている。「入れ歯君　よく　まあ　上手く　考えたものだ」と感心している。感想は後日・・。

◎雪かき：2 月 20・21・22 日に富山に行った。雪かきの話は、当ブログで詳しく述べた。

024　古事記　　150322
三浦佑之著＜古事記講義＞

◎天の岩戸：アマテラスが岩屋の中に籠ってしまい世界は闇に覆われる。その結果として招来されたのは、魑魅魍魎の跋扈する恐ろしい状況でした。困り果てた神々は寄り集まって相談します。そして、この窮地を救うために選ばれたのがオモヒカネという神でした。オモヒカネは知恵の神です。

◎オモヒカネの脚本演出監督、神々が役者としてひと芝居を打つ、ドタバタ喜劇の一面を持っています。
◎アメノウズメのストリップまがいの滑稽な神がかり、おっぱいをかき出し、裳のひもを秀処（ホト女陰）に押し垂れるという卑猥な所作で、観衆の男の神々を喜ばせ歓喜の声を上げさせる。

◎アマツマラとイシコリドメ：アマツマラは鍛冶屋。イシコリドメは石のように凝り固める鏡造りの女神。
◎アメノウズメのストリップもいいのだけけれど、アマツマラとイシコリドメの鏡造りには、マラだの硬くなるだのエロチックな話が含まれているということだ。

◎鏡は融けた金属を固め鍛える鍛人アマツマラと、相槌のイシコリドメとによって造られた最高の作品。鏡はアマテラスを岩戸から引き出すための重要な役割の祭具。融けた金属が固められるのは、鍛人のマラが石のように固くなる。マラを石のように凝り固める女神によって、鍛人のマラが鉄槌のごとく固くなる。

◎南方熊楠：アマツマラのマラは男根をさす。
鍛人はカヌチと訓むべし、金打ちの義、と宣長は言った。鉄槌もて強く金を打つから、親譲りの鉄槌も必ず強いという意で、鉄人を麻羅と名付けたのだ。
◎南方熊楠：さしも妖艶絶世のベヌスが、玉面のアポロ、軽快なメルクリーに聴かず、その他美容に富んだ諸神を打ちやって、汗に染み、煤に汚れた跋鍛工、バルカンを夫としたは、よくよくよい処に執着したものだ。

◎南方熊楠の話、「これはギリシャ神話か　ローマ神話か・・」この辺のところがまったく無知なオレ、ちょっと調べてみた。その前に、ギリシャ神話に心酔していた福永普男君のことを思い出す。3年ぐらい前かな、「かみさんが亡くなった　悲しいよ・・」とびっくりする電話があった。まさか、あの元気そうな人が、あの髭さんと生涯連れ添い3人の子どもを産んだ彼女が・・。ひげさんがよくギリシャ神話の神の名を話していたが、無知なオレは、「ほお～」としか返事ができなかった。

◎ギリシャ神話か、ローマ神話かもしれないが。まずはギリシャ神話がありきで、同じような内容もあるローマ神話があるらしい。ギリシャ神話はBC1500～1000年ぐらいから口承で吟遊詩人から語り伝えられたという。神々の名前がそれぞれ違う、まったく違うものもあれば似たようなものも・・。
◎南方熊楠の語りの内容がわからないままこれで失礼。

◎アポロは“アポロ像”が初めに浮かぶ。石膏デッサン室には“ブルータス像”“アポロ像”などの胸像が並べられせっせこ描いていた想い出がある。全身像、ペニスとキンタマをぶら下げすっくと立つイケメン兄ちゃんの大理石像はつとに有名。あらためて、あれがアポロ像だったのだとわかった。
◎メルクリーはビーナス。ならばローマ神話の話なのか。このあたり解決しないままに時間が経っていく。ビーナスと言えば美そのもののように思っていたが、旦那がいるのによその男と・・浮気女のようである。
◎ビーナス：ギリシャ神話ではアフロディーテと呼ばれる。天空神ウラノスの男性器を鎌で切り取り、海に投げ捨てたところ、その肉塊から泡が吹き出し、泡の中からビーナスが生まれた。ビーナスは成熟した女性の姿で現れた。夫を持つが、マルス（これも石膏像で有名な将軍）などの愛人がいた。ボッテチェルリの」ビーナス誕生の絵、貝殻の上に載っているなぞが解けた。

◎天の岩戸：この語りの中で、笑いの部分があるという。じっくり本を読まなければわからないところ・・。
◎共笑・楽為・諸咲・歓喜咲楽
◎咲をワラフと読んでいる。
◎「ワラフ」笑う「エム」ほほ笑む

◎共笑：アメノウズメのストリップショウを見て、「みんなが大笑い」
◎楽為：アマレラスが、「アメノウズメが　舞い遊んでいる・・？」と戸の隙間からそっと覗く。
◎諸咲：アマレラスが、「なんで　神々が笑っているの・・？」
◎歓喜咲楽：アメノウズメがアマテラスに、「あなた様より貴い神が現れ　楽しく遊んでいます」

025　ポンポン山　170322

◎高槻市の山て、高見台に、「絵を　見に　来て」という話があり、せっかくそっちの方に行くのなら、「ちょっと　登ってみるか　ポンポン山」という計画を立てた。「右へ回って　右へ回ったら　摂津峡上の口に　行けるよ」「ほんまかいな」訝りながら歩いているが、おっしゃるように階段があり、右手に小学校を見て、バス通りが先の方に見える。「安岡寺　ここがそうか　摂津峡上の口の近所か・・」電信柱に住所が書いてある。昔、知り合いと本山寺あたりで会ったことがある、「散歩してる　家は　安岡寺だから・・」その時は聞いたことのある所だがくらいに思っていたが、歩くと地名がしっくり頭に入る、おおここか。

◎絵は100号の油絵。海の底、古代魚シーラカンスが泳ぐ空間の中には、中東の古代都市があり、宇宙があり、化石の貝が泳いでいる、そんな夢の絵画だ。「岡村君　そんなタイプの絵　見られるのかね」「いやあわからないままに　なんとか・・」絵の写真が送られてくるが、「写真では　わからない　見に行く」ということになった。100号の絵を家の外に出し、自然の中に置いてみた。絵が伝わってきた。

◎絵は、写真ではわからない。写真で絵が送られてきて、「どうだ　いい絵だろう」「この絵　どこがわるい　どこをどう直せば　よくなる」なんてことがよくある。オレ自身、「いい絵ができた　見てくれ」なんてパソコンから発信しているが、どこまで伝わっているやら・・。絵は写真や印刷物にすると、絵づらはわかるが内容が深く浸透してこない、半分わかるぐらいかな。音楽の方々も言う、「演奏は　ナマ　でないと・・録音じゃ　だめよ」これは当然だね。

◎登山口までの田園地帯、とはいえ市街地から北に5キロほど離れているだけ、どんどん都市化が進んでいくのだろう、あと何年もすれば田畑が無くなり、住宅やら工場やらが立ち並びそう。「おっと　桜かな　桜だよね　早いねえ・・」桜だという自信はないが、桜だということにしておこうじゃないか。

◎10：30登山口に着いた。高速道路の整備道、鉄扉を開け中に入って、鉄扉を閉める。様々なところで鉄扉を見たことがある、獣除けのため、牧場の家畜が移動しないため、関係者以外立ち入り禁止、一般車通行止めなどだ。村の住宅全部を囲った大がかりなもの、そこだけ扉が付いているもの、様々だ。

◎「ゴゲ　グゲ　キュキュ・・」ケタイな音が聞こえる。小型の獣があんなケタイな声でオレに話しかけて来るわけはなし、キツツキのドラミングにしては、きゅっきゅの音はないよね、チェーンソーでもなし、遠くの重機でもなし、なんて首を傾げ、上を見あげてはたと手を打った。強風で倒れかかった樹が三本もつれあい擦れあいの音だった。あの台風から3年ぐらいかな、当座は倒れた樹々の整理整頓で元に戻った気持ちになっていた。ところが道から離れた所は倒れっぱなし、傾いたまま、傾いてなくてもあの時おおいに揺れたのか、揺れたがゆえに動脈が切れたのか、まっすぐの木も枯れているという不思議な現象。枯れた樹、傾いた樹、もたれあった樹、そんな奴が何かの拍子にぐらりと来たらたまったものではない。1トン以上の重さはあるのでは、そんな奴が、ヒュ～ンと倒れてきたら一巻の終わりである。

◎せっせこ登る、よっこら登る、汗が噴き出してきた、汗、久しぶりに大汗、ポケットのミニタオルを出して顔をぬぐった。「汗なんて　半年ぶりだ」とにかくこれは気分がいい、気持ちが晴れる、いよいよ春を感じる。鈴をチリンチリン鳴らしながらスギ並木を歩いている。スギやヒノキの植林地帯は薄暗く鬱陶しく好きじゃないが、ここは爽やかな杉並木だ。なんで爽やかな杉並木だというと、小さい山の小さい尾根道、尾根の左右はスギだけれども、真ん中に尾根がある、道がある、そんなもんで陽当たりがいい、樹々の幹にもまだらに陽が射す、地面にもまだらに陽が射す、そんな真ん中を俺は歩く、しかもひとっこ一人いないところ、チリンチリンと鈴を鳴らしてジジイが登っていく、絵にはならないけれどオレは楽しい。

◎1時間ちょっとで本山寺の参道に出た。小休止、サンドイッチを食べ水をゴクリ、ミカンも喰った。汗はかいたがまだまだ風は冷たい空気はヒヤリとしている、長袖シャツ2枚でちょうどいい。今朝から青空におおわれている、天気が崩れることもなさそうな予報だった。まだまだ樹々は細い枝が見えるだけ、冬のさまだけれど、若葉がちらほら、芽が吹き出しそうだ、なんて期待しているともう次に来た時には、みどりが緑みどりになってくるみどり。萌え出て視界がゼロじゃないか、葉っぱバッカで何も見えないぞ、向こうが見たい、展望をのぞみたいと、勝手なぼやきも出るかもしれない。

◎てっぺんにやって来た。休日でもないのに10人ぐらいの人たちが入れ替わってやってきた。弁当やサンドイッチを食べる方々、コンロを出してラーメンをすする方々、みなさん山の昼食を楽しんでいる。

◎てっぺんに着いたら、小便をしようともくろんでいたが、何人かの人たちがいる。これではできないとオレも飯を喰った。「小便ぐらい　どこでも　できるじゃないの・・」とおっしゃるが、オレの山スタイル、もう10年20年同じようなスタイルで山を歩いている。背にはザック、小さい山でも30リッターのサイズを担いでいる。人と違うのは腰にポシェットをくくり付け、ポシェットの荷を腹に付けている。背にはザック、腹にはポシェットというスタイルなので、いちいちそれらを外さないと快適に小便ができない。ポシェットはおおいに便利、一眼レフカメラ、水筒、薬にライトに箸に歯ブラシ、いろいろ出てくるよ。

◎復路は本山寺から舗装された道を神峯山寺まででてくてく歩いた。いや待てそうじゃない、横道にそれ、昔の参道を何分か歩いた。本山寺への舗装道路はいつできたのか知らないが、いまだに、ところどころ昔の参道があり、そこを通る人がいるようで踏み跡が付いている。この道もまた楽しからずや。

026　まるも食堂　190322
　丸毛君は高校の同窓生、同じクラスになったこともありよく知っている仲である。展覧会にも何度も足を運んでくれ、奥さんも紹介してくれ、なんじゃかじゃ半世紀以上の付きあいになる。

　「今　工場の食堂を改装している　壁と床の色　相談にのってほしい」最近知ったが、新社長の息子君も我々と同じ高校の出身らしい。「えええ　そんじゃ後輩　そらあ　えらそうにできる・・」なんて嬉しい話はさておき、まずは会社に行った。

　“まるも自動車”　は淀川左岸、茨木の我が家からは仁和寺大橋を渡ってすぐのところにある。100 名足らずの従業員がおられるトラック専門の会社、トラックの整備改装などかな。

　工場には大型トラックがところ狭しと並んでいる。毎日走っている安威川右岸、大阪府の中央市場やら、トラックターミナルがあるので、大型トラックは見なれている。大型トラックはほんとうにでかい、あんなでかい奴をすいすい転がせる、バックオーライができる、運ちゃんはすごいね。機会があれば運転席に座ってみたいね。

　オーナーと新社長に連れられ工場敷地内の食堂現場に入った。大きい。長さが 32 メーター幅が 7 メーター、天井高は 2500 ミリ。

　壁は壁紙を貼る、床は 45 センチ角の樹脂タイルを貼る、ということでそれぞれのカタログを持ち帰った。建築デザイナーの山田さんに電話で、それぞれの施工のやり方を教えてもらった。「壁は　よほどの熟練工じゃない限り　直線の単純なデザインしか無理でしょう・・」「床も　同様で　熟練工なら　時間と費用を問わないなら　多少複雑なデザインは可能です」

　いくつかのデザインを持参して、オーナーと施工会社社長の三者会談、「施工費が決まってます」「壁は縦向きの色違い　直線での色違いは可です　複雑なものはちょっと・・」「床は　45 センチ角のタイル　並べるだけなら　色違いでも　デザイン通りに　施工できます」というようなことを聞いて帰った。

　オレはアウトドアーが好き、自然が好き。土の上に立って、向こうの方がスーッと開けて見えるような景色がいい。そんなことを思いながらデザインを考えた。複雑な壁が無理なら、ワンポイントに絵を貼ってみようかと閃いた。考えた末に、20 センチ角の絵を 40 枚たらず創り、現場にあわせて貼ろうと決めた。

　壁はまっ白のところに、柱部分と所々に黒い縦幅の色を入れよう。「20 センチ角ぐらいの絵を
　貼りたい・・」

　床は千鳥格子も考えたがやめた。白い床に黒い囲いを二重に入れる。その中に土なり砂なりを思わせるクリーム色をちりばめた。

　20 センチ角の絵を創らねば・・。ベニヤ板を一枚買ってきた。20 センチ角にノコギリを入れた。古キャンを小さく切って、ベニヤ板にキャンバスを巻き込んで糊付けした。糊が乾いた絵を並べ、絵の具を入れていった。古キャンでは味が出る、いい感じにできつつある・・。

　絵が貼れるという連絡で現場に入った。「おおお　きれいに仕上がっている　思った通りに仕上がっている　おおお　気にいった」壁を見、床を見、悦にいった。施工もきれいに上がっている、素晴らしい。

　20 センチ角の絵を、壁の下に並べた。行きつ戻りつ配置を決めた。次に絵を手に持ってもらって高さを決めた。「10 センチ上」「3 センチ下げて」「むむむ」行きつ戻りつ高さを決めた。貼り付けは施工会社の社長がやってくれた。3 時間ぐらいで 37 枚全部が貼れた。「うれしいねえ」

　これから、机と椅子が入る。「カタログが来るので　見てくれ」これも頼まれている。

　忘れていたが、内緒の話、“薄謝”と書かれた封筒をいただいた、多くいただいた、ありがとう。

027　古事記　　250322
◎古事記の話は、「スサノオが　ヤマタノオロチを　退治して　クシナビヒメと　結ばれる」というところまで読んだ。二人の結婚で神である子が生まれ、代々子が生まれ、オオクニヌシが生まれた。オオクニヌシの成長、オオクニヌシの国造り、オオクニヌシがアマテラスに国を譲る。あらすじをざっと書いてみました。

◎イナバノシロウサギ
◎オオアナムヂ（オオクニヌシの別名）は、八十神の兄弟たちと一緒に、ヤカミヒメに求婚するためにイナバに出向いた。八十神の兄弟たちは、オオアナムヂに荷を背負わせた。オオアナムヂは遅れ、気多の岬にやってくると、ウサギが痛みに耐えかね泣いていた。
◎ウサギは、「私は　淤岐島から　こちらに渡ろうとして　海のワニをだまし　数をかぞえるから　気多の岬まで　並んで　と頼み　ぴょんぴょん飛んで　最後に　アッカンベ　をしたら　ワニが怒って　皮を剥がれました」そこに、八十神が通りがかり、「海水を浴び　風に吹かれ　高いところで臥せっていると　治る」と教えられました。オオアナムヂは、「真水で身体を洗い　蒲黄（かまのはな）（ほおう：ガマの穂のこと：薬草）の上で寝転んでいると治るよ」といった。ウサギは身体が治り、感謝して、「あなたは　ヤカミヒメの心を　えられるでしょう」と言った。

◎ヤカミヒメは、八十神の兄弟たちに　「わたしは　オオナムヂと　結婚します」と宣言した。
◎怒った八十神の兄弟たちは、伯伎の国、手間の山本で、オオナムヂに赤猪を捕らえるように言った。
◎麓で待つオオナムヂに、八十神の兄弟たちは、焼けた石を転がし、焼き殺してしまった。
◎母神はその死を嘆き悲しみ、カミムスヒにお願いして、オオナムヂを生き返らせてもらった。
◎次に、八十神の兄弟たちは、オオナムヂを山に誘い、木の間に挟んで殺してしまった。
◎再び母神は、カミムスヒにお願いして、オオナムヂを生き返らせてもらった。オオヤビコのもとへ逃げ、さらに、スサノオの居る、根堅州国（ねのかたすくに）にたどり着いた。

◎スサノオの居る、根堅州国にたどり着いたオオナムヂは、スサノオの娘、スセリビメに会い、惹かれあい、結ばれた。スサノオは、オオナムヂを見て、「あいつは　葦原中つ国の勢いのある男」といった。
◎ここから、スサノオの、オオナムヂに対する、いじめなのか試練なのか‥が始まる。
◎「蛇の部屋で寝るよう・・」スセリビメが「蛇が襲ってきたら　ひれを三度振ってください」とひれを渡した。次に、ムカデとハチの部屋に入れた。これもひれで助かった。次に、野原で音の鳴る鏑矢を放ち、探すように言った。オオナムヂは野原に入るとすぐに、スサノオは火を放った。火が迫るなか、ネズミが、「内はほらほら　外はぶすぶす」というので、オオナムヂは、大きな穴の中に隠れた。
◎次に、スサノオは、「頭の中にいる　シラミを取れ」ところが、頭の中にはたくさんのムカデがいた。
◎スセリビメがむくの実と赤土を渡した。オオナムヂは、それを口に含み吐き出した。スサノオは、ムカデを噛み殺して退治してくれていると思い寝た。
◎寝たのを待って、二人は、スサノオの髪を垂木に結び、生太刀（いくたち）・生弓矢（いくゆみや）・天の沼琴（あまのぬこと）を持って逃げた。
◎スサノオは追いかけたがあきらめ、大きな声で叫んだ。
◎生太刀・生弓矢・天の沼琴で八十神を追い払え。オオクニヌシと名乗れ。スセリビメを正妻として、宇迦山に，太い柱、天まで届く屋根の宮を建て　そこに住め」
◎結婚を約束したヤカミヒメは、正妻のスセリビメを恐れ、子どもを置いて帰っていった。子はキマタ神。
◎ヤチホコノカミ（オオクニヌシのこと）は、高志国（こしのくに：）ヌナカワヒメに求婚しようと出かけた。高志国：福井・石川・富山・新潟。越前・加賀・能登・越中・越後にあたる。
◎ヌナカワヒメの戸が開かない、鳥が朝を告げても開かない。ヤチホコノカミは、「心の痛みを知らないで　鳴く鳥は　殺してしまいたい」
◎ヌナカワヒメは歌で、「私は萎れた草のような女　私の心はわたしのものだが　のちにはあなたのものになってしまう　どうぞ鳥を殺さないで」「夜になったら　おいでください」
◎ヤチホコノカミは、翌日の夜に、ヌナカワヒメに会うことができた。
◎出雲では、正妻のスセリビメが嫉妬し、ヤチホコノカミは困って、大和に行こうとする。
◎いよいよ出かけようとしながら、ヤチホコノカミは歌った。「愛しい妻よ　私が出て行ってしまったら　お前は悲しむだろうか」
◎スセリビメは、酒の入った杯をもって駆け寄り歌った。「私のオオクニヌシよ　あなたは男なので　妻があちこちに　私は女なので　夫はあなただけ　どうか私と　手足を伸ばして　休みましょう　さあ　お酒を召しあがれ」
◎こう歌って、酒を交わして誓いを結び　オオクニヌシと　スセリビメは　お互いに抱きあいました。こうして今に至るまで、出雲に鎮座することになったのです。

028　古事記　　260322
◎オオクニヌシは国造りのために、あちこちに出かけた。
◎オオクニヌシが出雲の御大（みほ）の岬にいると、芋の葉の船に、蛾の皮の服を着た神が近づいてくる。
◎「だれだ・・？」他のものも、「・・？」ヒキガエルが「クエヒコなら知っているでしょう」
◎クエヒコが、「カミムスヒの子　スクナビコナです」クエヒコ：案山子のこと：天下のことをよく知る神。
◎カミムスヒが、「あの子は　葦原中つ国で　勢いのあるあなたと　兄弟になって　国造りを　固めるだろう」ともに国づくりに励み、スクナビコナは、常世の国へ去っていきます。
◎オオクニヌシが嘆いて、「一緒に　国造りをする　神は　いないか」すると海面が輝き、神がやって来た。
◎やって来た神は、「私を祭れ、祭るなら　わたしは　あなたと一緒に　国造りを　完成させましょう」
◎「大和を　青々した垣根で　囲んでいる　東の山の上に　祭りなさい」これが三輪山です。

◎国譲り：高天原が、地上の国の支配権をオオクニヌシから受け継ぐ（奪う）という神話です。天皇家が日本列島を支配する正当性を伝え、天孫降臨神話につながる。
◎アマテラスが、「稲穂の美しい　葦原中つ国は　私の子が治める国である」そでを、アメノホシホミミに任せた。神が天橋立に立ち、引き返し、アマテラスに、「葦原中つ国は　まだ　騒がしい」と申し上げた。
◎タカギムスヒとアマテラスが相談して、次に、アメノホヒを遣わしたが、神はオオクニヌシに従い、三年経っても帰ってこない。
◎タカギムスヒとアマテラスが相談して、次に、アメノワカヒコを遣わしました。アメノワカヒコはオオクニヌシの娘シタテルヒメと結婚し、葦原中つ国を自分のものにしようと、八年経っても帰ってこなかった。
◎次に、ナキメに、「アメノワカヒコが　命に背き　八年経っても　帰ってこないのはなぜだ」と聞きにやらせた。雉の姿のナキメがいうのを聞き、アメノワカヒコは天つ神より与えられた弓矢でナキメを射殺した。その矢がタカギムスヒとアマテラスのところまで届いた。「この矢は　アメノワカヒコに　与えた矢ではないか」「もしい背いていないなら　矢は当たらない」と矢を放つと、朝方寝ていたアメノワカヒコに矢が当たって、死んでしまった。
◎次に、タケミカヅチとアメノトリフネの二神が遣わされた、イザサの浜で、オオクニヌシにたずねた。
◎「私は　アマテラスと　タカギムスヒに命じられ　来ました」「あなたの支配する　葦原中つ国は　アマテラスの御子が統治する国である　あなたの気持ちは・・」
◎オオクニヌシが、「私は申し上げられない　子の　コトシロヌシが　答えるでしょう」
◎コトシロヌシは、「恐れ多いことです　差し上げましょう」と言って隠れてしまった。
◎オオクニヌシが、「私の子の　タケミナカタが　おります　そのほかはおりません」
◎タケミナカタがやって来て、「だれだ　わしの国にやって来て‥まずは力比べをしようでは・・」
◎タケミカヅチの手が、つららになり、剣の刃になった。次にタケミナカタの手を握りつぶし、投げ飛ばした。
◎タケミナカタはただちに逃げた。それを追って科野国（しなの）の州羽海（すわこ）まで行き殺そうとした。
◎タケミナカタは、「殺さないでください　葦原の中つ国は　差し上げましょう」
◎オオクニヌシは、「二人の子は同意したなら　葦原の中つ国は　差し上げましょう」
◎私の住まいは　宮柱を太く建て　高天が原まで　千木が届くように高く　祭ってください」
◎こうして、出雲の多芸志（たぎし）の小浜に天の御舎が造られました。

◎オオクニヌシには名前がいくつかあり、若い頃は“オオアナムヂ”という名でした。
◎オオクニヌシは、八十神の兄弟たちに、嫉妬で殺されてしまう。
◎母神の願いで、生き返る。
◎オオクニヌシは、スサノオの居る、根の堅州国（ねのかたすくに）へ逃げ延びる。＜オオクニヌシにとって、6代前のジジイであるスサノオと同じ空間にいるという不思議は、神様ならではかな。＞
◎根の堅州国でスサノオの娘“スセリビメ”と恋仲になり、スサノウが出す試練、いびりから二人で逃げだす。逃げる時に、生太刀、生弓矢、天の沼琴を奪って逃げた。
◎スサノウは追ったが、黄泉比良坂まで追ったがあきらめ、「その太刀　弓矢で　兄弟たちを追い払い　大国の主と成れ」と叫んだ。
◎オオアナムヂは兄弟たちを追い払い、葦原中つ国を作り、オオクニヌシになった。
◎オオクニヌシは、古事記だけでなく、出雲風土記にも、登場する。